



〈雜録〉我國ノ富ト貯蓄(其二完結)

下村, 宏

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 7(2):284*-290

(Issue Date)

1909-08

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051432>



我國ノ富ト貯蓄(其二完結)

法學士 下村 宏

目次

第二、貯金事業ノ比較

- 一、東西郵便貯金ノ比較
- 二、各國ノ富ト郵便貯金
- 三、各國々民ノ所得ト負擔

第二 貯金事業ノ比較

一、東西郵便貯金ノ比較

コレカラ東西ノ郵便貯金事業ニ於ケル比較ト、何故ニ其ノ遠
ヒガ出來テ來タカ、又ソノ遠ヒハ如何ナル方法ニヨツテ矯正ガ
出來ルカト云フコトニツキ卑見ヲ述ベタイト思ヒマス、夫レデ
次ノ表ニ示シテアルノハ、吾國ヲ始メ重立ツタ諸外國ニ於ケル

郵便貯金ダケニ付テノ預人一人ノ預金額、人口千ニ對スル預人員、人口一人ニ對スル預金額ノ表デアリマス。之ハ必ズシモ同少年デモアリマセズ、又非常ニ精確ナモノトハ申上ゲニクイ。又一ツハ郵便貯金ト云フ制度ハ國ニヨツテ違ツテ居リマシテ、コノ數字ヲ見テ直ニ何處ノ國ノ郵便貯金ハ發達シテ居ルトカ居ラナイトカ云フコトハ無論云ヘナイ、ト云フノハ第一ニ其ノ各國ニ於ケル民間ノ貯蓄銀行ノ制度又之ニ對スル法規ノ類ハ國ニヨリテ無論違ツテ居ル、夫カラ第二郵便貯金ト云フモノ、外ニ此ノ市町村ノ公共團體ニ貯金制度ノアル國ト無イ國ガアル、例ヘバ獨逸ノ様ナ國ハ郵便貯金制度ハ無イケレドモ、市町村ノ公共團體ノ貯金制度ハ到ル處ニアル、又佛蘭西ノ如キハ民間ノ貯蓄銀行モアル、市町村ノ貯金局トイフモノモアル、政府ノ郵便貯金モアル、サウ云フ様ニ國タニヨツテ組織ガ違ツテ居ル、第三ニ尙ホ違フノハ此ノ一人當ノ預金額ノ最大制限額ハ國ニヨリテ違ツテ居ル、例ヘバ加奈太ノ如キハ三千弗トイフノガ制限ニナツテ居ル、日本ノ六千圓デアアル、六千圓マデハ預ケラレルト云フ國ト、日本ハ在來迄ハ五百圓以内デアツタガ、今ハ一千圓迄ニナツテ居ル、從フテ此兩國デハ自ラ人口一人ニ對スル預金額ノ違フノハ當然ノ話デアアル、夫レカラ第四ニ其土地ノ公債ノ利子ハ何ウデアルカ、若シ其公債ノ利子ガ割引發行ニナツテ居ルナラバ、ドフ云フ價額デ發行サレデドウ云フ利廻リニナツテ居ルカト云フコト、其土地ノ貯蓄銀行ノ利子ハドウ云フ風デア

ルカト云フコト、夫レカラ今度ハ郵便貯金ノ利子ガドウデアアルカト云フコトガ最も重要ナル問題デアアル、ドコノ國デモ郵便貯金ハ貯蓄銀行ト競争チ目的トスルモノデナク、下級ノ零碎ノ資金ヲ吸收シテ最も確實ニ保管スルト云フノデアアル以上ハ、何處ノ國デモ郵便貯金ノ利子ハ公債ノ利廻リ歩合又ハ貯蓄銀行ノ利子ヨリ低イコトハ言チ俟タヌノデスガ、ソノ低イノニモ其比較歩合ガドウナツテ居ルカ、民間ノ利子トノ比較、制限額、他ノ貯金制度ノ如何トイフコトガアリマスカラ、コノ統計ノ表ヲ見テ直グドノ國ハ優ツテ居ルドノ國ハ劣ツテ居ルト云フ批評ハ無論立テヤウガナイノデアアル。

	預人一人ノ預金額	人口千ニ對スル預人員	人口一人ニ對スル預金額
日本	一一六七	一五二	一、七八
英吉利	一五三、七七	二三九	三六、八二
佛蘭西	一〇九、〇六	一二三	一三、四二
澳大利	四四、九〇	七六	三、四四
匈牙利	五〇、一〇	二九	一、四六
伊太利	七五、五六	一六七	一二、八六
和蘭	九〇、四六	二三九	二一、六五
加奈太	五七二、一〇	三〇	一七、七三
瑞典	五一、六〇	一〇八	五、五八
白耳義	一一一、一九	三六一	四七、四二

然シナガラ大體ハ此表デ見テモ人口ニ對スル預人員ハドン
 ナモノデアアルカト云フコトダケニ付テハ日本ハ差シテ劣ツテ居
 ラヌト云フコトガ玆デ分ツテ居ル、澳太利匈牙利或ハ加奈太ソ
 レカラ瑞典、佛蘭西等ニ比シテ日本ノ方ガ預ケテ居ル人員ガ多
 イ、唯ダ英吉利トカ和蘭トカ白耳義伊太利等ニ比シテ劣ツテ居
 ルダケデアツテ、其他ノ國ニ比較スルト云フト其土地ノ人口ニ
 對スル郵便貯金ノ預人員ニ於テハ日本ハ此表ニヨツテモ決シテ
 劣ツテ居ラヌト云フコトガ明デアアル、處デ金額ニナルト、コノ人
 口ノ一人ニ對スル預金額ハ一圓七十八錢、預人員一人ニ付デア
 ナク人口一人ニ割當テ、日本ノハ一圓七十八錢デス、コレガ先
 程ノ表デ二圓位ニ高マツテ居ルノハ四十一年デアアリマシテ、是
 レハ確カ四十年デアツタト記臆シマスガ、兎ニ角二圓未滿デア
 リマス、夫レニ對シテ近イノ匈牙利デアリマシテ澳太利ハ多
 少高イ、瑞典モ大分高イ、其他加奈太利佛蘭西等ハ何
 レモ六七倍以上ニナツテ居ル、英吉利ニナルト云フト十九倍餘
 マア約二十倍違フト云ツテ宜イ、白耳義ニナルト二十五倍バカ
 リモ違ツテ居ルノデアリマス。

二、各國ノ富ト郵便貯金

我日本ハ預人員ニ於テハ優ツテ居ルガ、預金額ニ於テハ劣ツ
 テ居ル、少ナクトモ是レガ英吉利ノ様ニナラ子バ可カヌ、是ハ白
 耳義ノ様ニナラネバ可カヌト云フコトハ希望トシテ至極尤モノ

議論デアアルノデスガ、是レハ一人當トシテ日本モ英吉利モ白耳
 義モ同ジ身代ヲ銘々ガ持ツテ居ツテ、物價ノ直段モ勞銀ノ率モ
 相違ノナイ時ニ云ヘルノデアツテ、無イ袖ハ振ラヌノデアアリ
 マスカラ、預金額ニ於テ之ガ多少ヲ論セントセバ勢イ其國ノ富
 其國ノ一人當ノ富ガ何ウナツテ居ルカト云フコトニヨツテ解決
 スル外ハナイ、夫レテ國ノ富トイフコトハ是レハ餘程六ヶ數イ
 問題デアツテ、御承知ノ通り此ノ富ヲ算出スル方法ハ統計學者
 ニシロ又ハ經濟學者ニシロ皆銘々各種ノ標準ニヨツテ、算出ス
 ルコトニナツテ居ル、而カモ其算出シタ結果ハドウデアアルカト
 云フト、其ノ算出スル土臺トナルベキ統計トイフモノガ亦精確
 ナリトハ云ヘヌ、日本デハ國勢調査チスルトイフ事ハ議會デ可
 決サレデアアルガ未ダ行ハレナイ、東京デ市勢調査ト云フコトガ
 人口ニツキ行ハレタ位デアアルガ、此「センサス」ト云フコトハ外
 國デハ五年毎トカ或年限ヲ置イテ非常ニ精確ニ人口其他ノモノ
 ナ計算スル、日本デモ東京ノ人口ガ三百萬或ハ三百五十萬トカ
 云フノデスガ、市役所ノ調ト警察署ノ調ト其間五十萬人モ相違
 ガアル市勢調査ノ結果確ニ二百六十萬トカ云フコトガ分ツタノデア
 アリマス、其等ノ不確カナモノヲ根據トシテ夫レノ何倍トカ云
 フコトヲ計算スルノデアリマスカラ、既ニ根據ガ不確定ナモノ
 デアリマシテ、各種ノ學者ノ算出シテ居ル處ハ或ル程度迄ハ似
 テ居ルケレドモ無論精確ナモノハ得ラレル筈ガナイノデアアリマ
 ス、然カシ大數觀測トシテ其大體ヲ忖度スルニハ敢テ差支ハナ

イ事ト存ジマス。

國別	國ノ富	一人當	一人當	一人當	所得ニ對
		富	平均所	租稅負擔額	租稅負擔額
英吉利	二八〇	三〇〇〇	三〇〇	三二八〇	〇九
佛蘭西	八七〇	二五〇〇	三二二	三七八〇〇	一二二
北米合衆國	一六五	二二五〇	四四〇	一四〇九〇	〇三三
獨逸	八〇〇	一五〇〇	二四七	一九六八〇	〇九
澳大利	四五〇	一〇五〇	一六七	三四四一〇	二〇六
伊太利	三三五	一〇五〇	一四〇	二八四六〇	二〇三
露西亞	六四五	六〇〇	×	×	×
日本	二一七	二五〇	六〇	二一六〇	二一〇

此ノ表ニヨリマスルト、英吉利ノ富ハ千八百八十億圓、佛蘭西ハ八百七十億圓、コノ比較テ云フト日本ノ富ハ百十七億圓ニナツテ居ル、此ノ富ヲ其國ノ其當時ノ人口ニ割付ケルト英吉利ハ一人テ平均三千圓、佛蘭西人ハ二千五百圓持ツテ居ル勘定デア、亞米利加合衆國ハ二千三百五十圓、獨逸ハ千五百圓、澳大利ハ千五十圓、伊太利モ千五十圓、露西亞ハ六百圓、日本ハ二百五十圓ニナツテ居ル、是レハ富ト云フデスカラ金ト云フ事デハナイ、其當時土地ノ直段、家屋ノ直段、鐵道船舶ナリ鑛山ナリ、總テノ財産ヲ計算シテ一人ニ割付ケルト云フト日本ノ富ノ價格ハ一人ニ當リ平均二百五十圓ニナルト云フノデアリマスサウスルト日本ノ富ノ一人當二百五十圓ヲ單位トスルト露西亞

ハ倍以上アル、伊太利澳大利ハ四倍、獨逸ハ六倍、亞米利加合衆國ハ九倍、佛蘭西ハ十倍、英吉利ハ十二倍アル、ソレデ前ニ申シタ通り此表ハ正確ナモノトハ申サレマセヌガ大體ニ於テ日本ノ富ハ現在著シク劣ツテ居ル事ハ明カデアリマス、夫レデ此ノ富ノ劣ツテ居ル比例ト先ニ擧ゲテアル、郵便貯金ノ預金額ニ於テ劣ツテ居ル比例ヲ比ベルト、自ラ其間ニ權衡ヲ得テ居ルノデアル、英吉利ノ一圓七十七錢ニ對スル二十三圓八十錢ハ、二百五十圓ニ對スル三千圓ト大差ハナイ、夫レデ此ノ富トイフモノガ根底ニ於テ殖エヌ以上ハ貯金額ガ殖エテ見タ處デ夫レハ先キノ見エタ話デアル、又増サウト云ツテモ然リ増セル話デハナイノデアル、殊ニ此ノ富ト云フモノニ對シテ付纏フテ來ルノハ物價勞銀デアル、同ジク日本人ハ二百五十圓ダト云ヒ或ハ亞米利加人ハ二千三百五十圓ダト云フデモ其ノ金ノ購買力ハ國ニヨツテ違フト云フコトハ明デアル、御承知ノ通り近頃ハ關稅問題ガハケ間シクナツテ各國テ保護政策ヲ取ツテ輸入スル貨物ニ稅ヲ課シテ居ル、豫テ非常ニ自由貿易主義ヲ取ツテ居ツタ英吉利デモ近頃ハ保護政策ヲ取ルニ到ツテ居ル、從テ同ジ品物デモ關稅率ノ異ナルニ從ヒ甲ノ國ニ於テハ夫レチ百圓ト見積リ乙ノ國デハ百五十圓ト見積ル事ガアル、同ジ金ヲ以テ同ジダケノ「パン」チ食イタイ同ジダケノ着物ヲ着ヤウト云ツテモ、一方デハ夫レダケノ需用ヲ滿タス爲ニ二百圓要ルガ一方デハ二百五十圓要ルト云フコトニナル、ダカラ國ニヨツテ持ツテ居ル金ノ値打ガ

違フ、夫レカラ其ノ價格トイフモノ、見積方モ違フ、夫レカラ尙ホ大キナ問題ハ此ノ富ガ一人平均ニスレバ二百五十圓ト云ヒ或ハ三千圓ト云フケレドモ、是レガ實際ニ何ウ云フ具合ニ分配サレテ居ルカト云フ問題デアル、國ニヨツテ非常ニ上ノ貴族或ハ富豪者ノ大キナ階級ガアツテ、中流ト云フモノガ少ナク主トシテ其富トイフモノハ一部上流ノ者ニ事有サレテ居ル處モアルダラウ、又國ニヨツテハ主トシテ中流社會ニ平均ニ富ガ分配サレテ居ル處モアリマセウ、其ノ富ガ全體ノ國民ニドウ云フ具合ニ分配サレテ居ルカト云フコトハ、其國ノ將來ドウ云フ具合ニ發達スルカ、其社會ガドウ云フ具合ニ變遷推移シテ行クカト云フコトノ上ニ非常ナル大影響ヲ持ツテ居ル、是レニ付テハ各國相續稅トイフモノニ付テ其ノ分配ノ標準程度ヲ取ツテ居ル、相續稅ハ死シタ時ニ子孫其他ノ財産ヲ讓ル場合ニ受ケル方ノ者ヨリ其ノ一部ヲ納稅スルノデアル、例ヘバ佛蘭西ニ於テハ一年ニ六十億法ノ相續稅收入ガアル、其ノ六十億法ト云フモノハ、一代ノ人間ノ壽命ガ平均三十三年カ三十四年トスルト、之ヲ其ノ六十億法ニ掛ケルト云フト千九百八十億約二千億法トナル、一法ハ四十錢デアリマスカラ先ヅ八億萬圓デ、稅率百分一デスカラ財産總額八百億圓ト云フ譯ニナル、八百七十億ト八百億トハ七十億ノ遠ガアルガ、相續稅ノ方カラ算出シテモ又國ノ富ノ算出額ガ殆ンド一致シテ居ルノデアル、從テ相續稅ヲ乘ジタ財産額ヲ件數デ除シテ得タ數ガ何ノ位ニナツテ居ルカト云フコトヲ

以テ、凡ソ其國ノ富ガドウ位ニナツテ居ルカト云フコトノ材料ニ使フコトモアリマスガ、要スルニ極ク少數ノ一部ニ富ガ壟斷サレテ居ル、ト云フト訝弊ガアルガ、專有サレテ居ルノハ餘リ慶バシイ現象デハナイ、ニ反シテ廣ク中等社會ガ多クテ、夫レガ一般上流ト下級ノ社會トノ連鎖ニナツテ居ルト云フコトハ、其國ノ總テノ發達ノ上ニ於テ喜バシイ現象デアル、尙ホモウ一ツ茲ニ脱ケテ居ルノハ、是レニハ無形ノ資本ト云フモノガナイデ此ノ見積ツテアル價格ハ皆土地トカ、或ハ家屋トカ、會社銀行トカ、或ハ鐵道デアルトカ、或ハ鑛山デアルトカ、其他各種ノ動產不動產、總テコノ有形貨物ニ對シテ見積ツタ富デアツテ無形ノ富ト云フモノハ之ニ付テ見テ居ラス、ソノ無形ノ富ト云フモノガ何故貴イカト云フト、其ノ無形ノ富ハ將來有形ノ富ヲ大ニ作ル資本デアル、言ヲ換ヘテ云ヘバ、其ノ國民ノ智育ナリ體育ナリ、德育ナリガ、如何ニ發達シ居ルカト云フコトデアル現ニ千圓ノ金ヲ私ガ持ツテ居ルトスルト、夫レデ私ハ家屋ヲ買フコトガ出來ル、夫レデ家屋ヲ買ツタラ夫レハ一千圓ニ算出サレル、其ノ千圓ヲ子供ヲ教育スル學資ニ使ツタトスレバ夫レハ消エテ了ヒマスケレドモ、今度ハ其ノ千圓ガ有爲ノ人物トナツテ現ハレテ來ルガ、是レハ此ノ計算ニハ出テ居ラス、ガ其ノ頭ガ善イカ惡イカニヨツテ此ノ富ト云フモノガ此ノ儘ニ止マツテ居ルカ退クカ進ムカ、又進ムニシテモ何ウ云フ速度デ進ムカト云フコトニナル、從フテコノ年々ノ統計ノ表ヲ見ルト獨逸ノ

富ノ度ハ非常ナル速度ヲ以テ進ミツ、アル、人口ノ増加一人當リ人口ノ能率ノ増加ト共ニ著シキモノガアル、日本デモ人口モ亦富ト云フモノモ無論年々歳々増加シツ、アルニ相違ナイガ、此ノ増加一人當リノ富ノ増加ガ著シク現ハレヌ以上ハ貯金モ其ノ進ムベキ根底カナイ、又貯金ガ増加スルカラ其預金額ハ生産的ニ働イテ一方ニ富ヲ産ミ出ス、詰マリ御互ニ原因ニナリ結果ニナツテ行クノデアアル、乃チ各個人ノ零碎ノ資金ガ集マリテ有力ナル生産的資本トナルノデアアリマス。

三、各國々民ノ所得ト負擔

昨年全國ノ商業會議所聯合會デ酒稅其他ノ租稅專賣等ニ對スル一人當、夫レカラ國債其他ノ一人當、國庫支出ニ對スル一人當及ビ貿易ニ關スル一人當等各種ノ統計ヲ調べタ結果ニヨツテモ公債ノ負債ニ付テハ、三十六年度ニハ國債府縣債市町村債ノ一人當ノ負擔ガ約十三圓デアツタ、夫レガ四十六圓ニナツテ、差引二十六圓ノ増加ニナツテ居リマス、三倍以上ニ負擔ガ増加シテ居ル、夫レカラ酒稅其他ノ諸稅專賣收入ナドノ負擔ガ、其ノ數字ガ國稅府縣稅市町村稅ヲ含ンデ居リマスガ、其ノ合計三十六年度ニハ一人當約六圓デアツタ、夫レガ戰後ニナツテハ約十圓ニナツテ居ル。

戰前ト戰後ノ負擔

酒稅其他負擔額一人當

第七卷 (二八九)

雜錄

我國ノ富ト貯蓄

三十六年度		四十年又ハ		四十一年度		增減比例	
國稅、印紙收入、專賣收入	三、七〇〇	四、五七六	增	九、九			
府縣稅	九、五	八、四	減	六、六			
市町村稅	二、〇七	二、九六	減	六、六			
以上合計	六、〇三	九、七〇	增	六、三			
國債其他負債額一人當	三、七四七	四、二九	增	三、八〇			
國債及府縣債市町村債	三、七四七	四、二九	增	三、八〇			
國庫支出ニ關スル一人當	五、三〇	三、六九三	增	三、四			
國庫ノ歳出	一、七四九	四、七六八	同	一、七六			
陸海軍費	一、二六	二、一〇	同	七、五			
遞信農商務費	七、八	三、八二	同	六、八			
國債ニ關スル費	一、六七	二、〇三	同	二、九			
其他一般	七、五	九、五〇九	增	三、元			
貨幣及貿易ニ關スル一人當	五、〇〇	六、七五	同	三、三			
正貨	一、三〇一	一、九〇九	同	四、五			
紙幣	六、八	八、九〇九	同	三、二			
輸出總額	六、八	一、〇、八	同	四、七			
輸入總額	六、八	一、〇、八	同	四、七			

此ノ如ク日露戰役ト云フモノニヨツテ一方ニハ富ヲ増シ一方

第二號

(一三七)

ニハ夫レニヨツテ各種ノ利益ヲ得タコトハ前ニモ御話シタ様デアルガ、他方ニバ又歴然ト税ノ負擔ノ重クナツテ居ルト云フコトモ事實デアル、其ノ重クナツタ負擔額モ是レモ年度ニヨツテ違ヒマスシ見方ニヨツテ違ヒマスガ、今日ハ一人當十二圓ノ負擔額デアル、サウスルト外ノ國ニ比スルト成程低イ、低イト云フノハ實數ニヨツテ低イノデ、コノ四五日前ノ諸新聞ニモ出テアツタノデスガ、軍事費或ハ國債費夫レカラ行政費等ニ分ケテ其ノ一人當ノ租税ノ算出ガ或ハ十圓ト算出シタノモアルシ、十一圓ト算出シタノモアリマスガ、要スルニ「アブソリユートナンバー」トシテ外ノ國ニ比シテ明ニ少ナイト云フコトハ分ツテ居リマスガ、其ノ根底ニ這入ルト一人ノ所得ガ日本人ハ僅カニ六十圓、一人ノ財産ガ二百五十圓デアル、處テ佛蘭西ハ成程負擔三十七圓、一番高クナツテ居ルノデスガ、佛蘭西ノ如キハ世界デ一番有名ナ公債ヲ餘計持ツテ居ルノデアルカラ、日本ノ租税ノ約三倍ノ負擔デアリマスガ、併シ一人ノ平均所得ガ三百十圓デアル、一人當ノ富ハ二千五百圓デアルカラ、租税ノ負擔ト云フモノガ一人ノ平均所得ニ對シテハ一割二分二厘デ、日本ノ方ハ二割デアル、二割ト云フノハ澳太利伊太利等ニ例ガナイデハナイガ、併シ獨逸トカ佛蘭西トカ合衆國トカ英吉利トカ云フ國而カモ一方ニ軍事ノ擴張トカ何トカ八ヶ間シク云ツテ居ル列強ノ比率ニ對シテハ決シテ日本ハ輕イトハ云ヘナイ、コノ輕クナイ租税ニ對シテ之レヲバ免レルニハ二ツノ方法ガアル、一ツハ

此ノ税ヲバ減ズルコトガ其ノ一方法ニ相違ナイ、ケレドモ今日遣ツテ居ル此ノ國ノ仕事トイフモノハ軍事ノ方デモ文事ノ方デモ或ハ公債整理ノ方面ニシロ皆遣リ通サナケレバナラヌ仕事デアル、否人口ノ増加國運ノ進捗物價勞銀ノ昂騰ニ伴ヒ國費ハ益増加セラレネバナラヌ、現ニ各省ノ豫算ノ分ケ取りガ苦シイカラ、例ヘバ遞信省ノ例ヲ取ツテモ、電話ノ如キ何年方續イテ加入ノ申込ガアツテモ架設スルコトガ出來ナイ、鐵道ノ方ハ何處ヲ架設又ハ修繕シナケレバナラヌト云ツテモ中々出來ヌト云フ有様デ、同ジ様ナ問題ガ何レノ省ヲ見テモ甲乙ガナイノデアル、日本ノ人口ハ年々五十萬人ヅ、殖エテ居ル、又スベキ仕事ハ年々殖エテ行クノデアルカラ、是等ノ經費ハ益々殖エテ行カナケレバナラナイ、之ヲ反對ニ減ジテ行クト云フコトハ餘程大勢ニ逆ツタ事デアル、行政ノ整理等節約ノ餘地ハ多少アリトスルモ國勢増進ノ大勢ニハ到底對抗スルコトガ出來ナイノデアル、サウスルト税法ノ整理トイフ事ハ必要カモ知レヌガ之ニヨリテ大ナル收入ノ輕減ヲ計ルト云フ事ハ不能デアル、吾々ハ積極的ニ非常ニ勸イテ一人當ノ富ノ價額ヲ高メ、所得額ヲ増加シテ、サウシテ租税負擔ノ二割ト云フノヲ、コンマ零々幾ツト云フ事ニナル様ニスルノガ、積極的ニ此ノ負擔ヲ輕クスル所以デアツテ、又夫レガ眞ニ國ノ隆興スル所以デアラウト思フノデアリマス。(完結)